

新聞一美先生年譜・著述目録等

◆年譜等

- 一九四九 昭和二十四年十月十四日 千葉県船橋市にて生れる。父新聞進一、母登美江、姉佐和子
- 一九六二 昭和三十七年三月 北海道学芸大学附属小学校、船橋市立宮本小学校を経て、東京都板橋区立中台小学校を卒業
- 一九六五 昭和四十年三月 東京都文京区立第四中学校卒業
- 一九六八 昭和四十三年三月 東京都立小石川高等学校卒業
- 一九六九 昭和四十四年四月 京都大学文学部入学
- 一九七三 昭和四十八年三月 同大学文学研究科国語学国文学専攻卒業。京都大学学士（文学）
- 一九七三 四月 同大学大学院修士課程文学研究科国語学国文学専攻入学
- 一九七六 昭和五十一年三月 同課程修了。京都大学修士（文学）
- 一九七六 四月 同大学院博士課程文学研究科国語国文学専攻進学
- 一九七七 昭和五十二年十月 生井水緒と結婚
- 一九七八 昭和五十三年九月 長男一彰誕生
- 一九七九 昭和五十四年三月 京都大学大学院博士課程、単位取得満期退学

- 四月 京都大学文学部研修員（五十五年三月まで）
- 四月 四天王寺女子大学講師（非常勤・五十六年三月まで）
- 九月 大阪外国語大学講師（非常勤・五十五年三月まで）
- 十月 大谷女子大学講師（非常勤・五十五年三月まで）
- 一九八〇 昭和五十五年四月 甲南大学文学部講師（専任）
- 一九八二 昭和五十七年一月 長女美紗誕生
- 一九八四 昭和五十九年四月 甲南大学文学部助教授
- 一九九三 平成 五 年四月 同大学文学部教授
- 一九九七 平成 九 年四月 同大学長期国内研究員（十年三月まで京都大学で研究）
- 二〇〇〇 平成 十二 年四月 同大学二十年永年勤続表彰
- 二〇〇三 平成 十五 年十一月 京都大学博士（文学）の学位を授与さる。学位論文「源氏物語と白居易の文学」
- 二〇〇五 平成 十七 年四月 京都女子大学文学部教授
- 二〇〇六 平成 十八 年四月 同大学国文学教室主任（十九年三月まで）
- 二〇〇九 平成 二十一 年四月 同大学大学院文学研究科委員会委員長（二十三年三月まで）
- 二〇一二 平成 二十四 年四月 同大学文学部長
- 二〇一五 平成 二十七 年三月 同大学文学部長・教授退任

○その他出講大学等（昭和五十五年四月以降）

大阪市立大学・京都大学・京都女子大学・京都府立大学・同志社大学・同志社女子大学・同志社女子大学短期大学部・奈良女子大学・梅花女子大学・佛教大学・三重大学・武庫川女子大学・武庫川女子大学短期大学部／クレオ大 大阪西（源氏物語講座）・伊丹市市民講座（源氏物語講座）

○所属学会・役員等（平成二十七年三月現在）

和漢比較文学会（代表理事・編集委員・特別例会実行委員）

和歌文学会（委員・関西例会委員）

中古文学会（委員・関西部会委員）

東アジア比較文化国際会議（日本支部理事）

白居易研究年報編集委員

万葉学会・京都大学国文学会・京都女子大学国文学会

◆著述目録

○単著

『平安朝文学と漢詩文』和泉書院・平成十五年（二〇〇三）二月（Ⅰ）

『源氏物語と白居易の文学』和泉書院・平成十五年（二〇〇三）二月（Ⅱ）

『源氏物語の構想と漢詩文』和泉書院・平成二十一年（二〇〇九）二月（Ⅲ）

○共著（一部執筆のもの。共編を含む。以下、丸括弧内のローマ数字は右の単著の所収を示す）

『論集 日本文学・日本語 2 中古』角川書店・昭和五十二年（一九七七）十一月

「李夫人と桐壺卷」（Ⅱ）

『源氏物語の人物と構造』笠間書院・昭和五十七年（一九八二）五月

「もう一人の夕顔―帚木三帖と任氏の物語―」（Ⅱ）

『論集 和歌とは何か』和歌文学の世界第九集・笠間書院・昭和五十九年（一九八四）十一月

「仏教と和歌―無常の比喻について―」（Ⅰ）

『源氏物語の探究 第十輯』風間書房・昭和六十年（一九八五）十月

「夕顔の誕生と漢詩文―「花の顔」をめぐって―」（Ⅱ）

『中古文学と漢文学Ⅱ』和漢比較文学叢書四・汲古書院・昭和六十二年（一九八七）二月

「源氏物語の女性像と漢詩文―帚木三帖から未摘花・蓬生卷へ―」（Ⅱ）

『日本古典文学史』双文社出版・昭和六十二年（一九八七）四月

『田氏家集注 卷之上』和泉書院・平成三年（一九九二）二月

『田氏家集注 卷之中』和泉書院・平成四年（一九九二）二月

『源氏物語と日記文学 研究と資料』古代文学論叢第十二輯・武蔵野書院・平成四年（一九九二）二月

「平安朝文学における「かげろふ」について―その仏教的背景―」（Ⅰ）

『語り・表現・ことば』源氏物語講座六・勉誠社・平成四年（一九九二）八月

「漢詩文をどのように取り入れているか―白楽天の諷諭詩に関連して―」（Ⅱ）

「新聞―美先生退職記念小特集」

- 『白居易研究講座 第一卷 白居易の文学と人生 I』共編・勉誠社・平成五年（一九九三）六月
- 『白居易研究講座 第二卷 白居易の文学と人生 II』共編・勉誠社・平成五年（一九九三）七月
- 「白居易の長恨歌―日本における受容に関連して―」（I）
- 『白居易研究講座 第三卷 日本における受容（韻文篇）』共編・勉誠社・平成五年（一九九三）十月
- 『源氏物語作中人物論集』勉誠社・平成五年（一九九三）一月
- 「桐壺更衣の原像について―李夫人と花山院女御悵子―」（II）
- 『源氏物語と漢文学』和漢比較文学叢書第十二卷・汲古書院・平成五年（一九九三）十月
- 「元白・劉白の文学と源氏物語―交友と恋の表現について―」（II）
- 『平安文学論究 第九輯』風間書房・平成五年（一九九三）十一月
- 「源氏物語の表現と漢詩文―白楽天の諷諭詩と夕顔・六条御息所―」（II）
- 『田氏家集注 卷之下』和泉書院・平成六年（一九九四）二月
- 『研究講座 源氏物語の視界1（准拠と引用）』王朝物語研究会編・新典社・平成六年（一九九四）四月
- 「源氏物語の結末について―長恨歌と李夫人と―」（II）*既発表論文の再録
- 『白居易研究講座 第四卷 日本における受容（散文篇）』共編・勉誠社・平成六年（一九九四）五月
- 「わが国における元白詩・劉白詩の受容」（I）
- 『白居易研究講座 第五卷 白詩受容を繞る諸問題』共編・勉誠社・平成六年（一九九四）九月
- 『白居易研究講座 第六卷 白氏文集の本文』共編・勉誠社・平成七年（一九九五）十二月
- 『東アジアの中の平安文学』論集平安文学二・勉誠社・平成七年（一九九五）五月

- 「源氏物語若紫巻と元白詩―夢に春に遊ぶ―」(Ⅱ)
- 『白居易研究講座 第七巻 日本における白居易の研究』共編・勉誠社・平成十年(一九九八)八月
- 「日本文学へ与えた白居易の影響に関する研究」
- 『源氏物語の和歌と漢詩文』源氏物語研究集成九・風間書房・平成十二年(二〇〇〇)九月
- 「源氏物語と白詩―明石巻における「琵琶行」の受容を中心に―」(Ⅱ)
- 『日本語の伝統と現代』和泉書院・平成十三年(二〇〇一)五月
- 「源氏物語の歴史性について―天武天皇・額田王像の投影―」(Ⅰ)
- 『王朝文学の本質と変容 散文編』片桐洋一編・和泉書院・平成十三年(二〇〇一)十一月
- 「松風」と「琴」―新撰万葉集から源氏物語へ―(Ⅲ)
- 『菅原道真論集』和漢比較文学会編・勉誠出版・平成十五年(二〇〇三)二月
- 「菅原道真の「松竹」と源氏物語」(Ⅲ)
- 『説話文学論集』第十四集・清文堂出版・平成十六年(二〇〇四)十月
- 「明石の姫君誕生祝賀歌と仏典比喩譚―算賀歌の発想に関連して―」(Ⅲ)
- 『新撰万葉集注釈 卷上(一)』編者代表・和泉書院・平成十七年(二〇〇五)二月
- 『源氏物語の新研究―内なる歴史性を考える』新典社・平成十七年(二〇〇五)九月
- 「算賀の詩歌と源氏物語―「山」と「水」の構図―」(Ⅲ)
- 『人物で読む源氏物語 桐壺帝・桐壺更衣』勉誠出版・平成十七年(二〇〇五)十一月
- 「桐壺更衣の原像について―李夫人と花山院女御祇子―」*既発表論文の再録

- 『新撰万葉集注釈 卷上(二)』編者代表・和泉書院・平成十八年(二〇〇六)二月
- 『源氏物語の始発―桐壺巻論集』竹林舎・平成十八年(二〇〇六)十一月
- 「李夫人と桐壺巻再論―「魂」と「おもかげ」―」(Ⅲ)
- 『源氏物語の展望第一輯』三弥井書店・平成十九年(二〇〇七)三月
- 「源氏物語松風巻と仙查説話」(Ⅲ)
- 『平安文学と隣接諸学 三 王朝文学と通過儀礼』竹林舎・平成十九年(二〇〇七)十一月
- 「平安朝の通過儀礼と漢詩―書始における孝経を中心に―」
- 『平安文学と隣接諸学 五 王朝文学と東アジアの宮廷文学』竹林舎・平成二十年(二〇〇七)五月
- 「宮廷文学としての漢詩―平安朝における遊仙窟の受容を中心に―」
- 『源氏物語と紫式部研究の軌跡 研究史篇』角川学芸出版・平成二十年(二〇〇八)七月
- 「田中隆昭著「北山と南岳―源氏物語若紫巻の仙境的世界―」
- 『源氏物語と紫式部研究の軌跡 資料篇』角川学芸出版・平成二十年(二〇〇八)七月
- 「源氏物語の結末について―長恨歌と李夫人と―」*既発表論文の再録
- 『源氏物語の新研究―本文と表現を考える』新典社・平成二十年(二〇〇八)十一月
- 「源氏物語帚木巻の「なでしこ」について―漢詩表現との関わりを中心に―」
- 『伊勢物語虚構の成立(伊勢物語成立と享受Ⅰ)』竹林舎・平成二十年(二〇〇八)十二月
- 「伊勢物語における遊仙窟受容について―第五十三段・第五十四段を中心に―」
- 『源氏物語と漢詩の世界』白氏文集』を中心に』青簡舎・平成二十一年(二〇〇九)二月

「白居易の花実論と源氏物語」

『源氏物語の展望第五輯』三弥井書店・平成二十一年（二〇〇九）三月

「源氏物語若紫巻と遊仙窟」

『国文学者新聞進一の軌跡』共編・編集委員代表・妙法華院・平成二十一年（二〇〇九）三月

「父新聞進一の国文学研究―中世歌謡と近代短歌―」「あとがき」

『源氏物語の言語表現研究と資料―古代文学論叢第十八輯―』武蔵野書院・平成二十一年（二〇〇九）十一月

「源氏物語の「花の顔」と遊仙窟―漢詩文表現との関わりから―」

『源氏物語と東アジア』新典社・平成二十二年（二〇一〇）九月

「源氏物語夕顔巻と遊仙窟―「邂逅相遇」の物語―」

『源氏物語の展望第十輯』三弥井書店・平成二十三年（二〇一一）九月

「源氏物語の「紫」と漢詩文」

『源氏物語と唐代伝奇』遊仙窟『鶯鶯伝』ほか』青簡舎・平成二十四年（二〇一二）二月

「源氏物語と遊仙窟―若紫巻と夕顔巻を中心に―」

『源氏物語と白氏文集』新典社・平成二十四年（二〇一二）五月

「源氏物語六条院の松と雪―白居易詩・菅原道真詩との関わり―」

○雑誌論文

「源氏物語の結末について―長恨歌と李夫人と―」（Ⅱ）

「新聞―美先生退職記念小特集」

- 『国語国文』四十八卷三号・昭和五十四年（一九七九）三月
- 「花も実も―古今序と白楽天―」（Ⅰ）
- 『甲南大学紀要』文学編四十・昭和五十六年（一九八一）三月
- 「桐と長恨歌と桐壺卷―漢文学より見た源氏物語の誕生―」（Ⅱ）
- 『甲南大学紀要』文学編四十八・昭和五十八年（一九八三）三月
- 「源氏物語と廬山―若紫卷北山の段出典考―」（Ⅱ）
- 『甲南大学紀要』文学編五十二・昭和五十九年（一九八四）三月
- 「日中長恨歌受容の一面―黄滔の馬嵬の賦と源氏物語その他―」（Ⅰ）
- 『甲南大学紀要』文学編六十・昭和六十一年（一九八六）三月
- 「阿倍仲麻呂の詩歌とその周辺―望郷の月―」（Ⅰ）
- 『甲南大学紀要』文学編六十四・昭和六十二年（一九八七）三月
- 「日中妖狐譚と源氏物語夕顔卷―任氏行逸文に関連して―」（Ⅱ）
- 『甲南大学紀要』文学編七十二・平成元年（一九八九）三月
- 「須磨の光源氏と漢詩文―浮雲、日月を蔽ふ―」（Ⅰ）
- 『甲南大学紀要』文学編七十六・平成二年（一九九〇）三月
- 「大和物語蘆刈説話の原拠について―本事詩と両京新記―」（Ⅰ）
- 『甲南大学紀要』文学編八十・平成三年（一九九一）三月
- 「源氏物語葵卷の神事表現について―かげをのみみたちし川―」（Ⅰ）

- 『甲南大学紀要』文学編九十九・平成八年（一九九六）三月
- 「白居易の詩人意識と『菅家文章』「古今序」―詩魔・詩仙・和歌ノ仙―」（Ⅰ）
- 『和漢比較文学』十七号・平成八年（一九九六）八月
- 「源氏物語葵巻の「あふひ」について―賀茂の川波―」（Ⅰ）
- 『甲南大学紀要』文学編百三・平成九年（一九九七）三月
- 「五節の舞の神事性と源氏物語―少女巻を中心に―」（Ⅰ）
- 『甲南大学紀要』文学編百七・平成十年（一九九八）三月
- 「五節の舞の起源譚と源氏物語―をとめごが袖ふる山―」（Ⅰ）
- 『大谷女子大國文』二十八号・平成十年（一九九八）三月
- 「新樂府「陵園妾」と源氏物語―松風の吹く風景―」（Ⅱ）
- 『國語と國文学』七十五卷十一号・平成十年（一九九八）十二月
- 「平安朝文学における中国文学の受容―源氏物語明石巻と「琵琶行」―」
- 『私学研修』百五十三号・平成十一年（一九九九）七月
- 「白居易文学と源氏物語の庭園について」（Ⅱ）
- 『白居易研究年報』二号・平成十三年（二〇〇一）五月
- 「藤原時平について―道真左遷の首謀者―」（Ⅲ）
- 『解釈と鑑賞』六十七卷四号・平成十四年（二〇〇二）四月
- 「松」の神性と『源氏物語』（Ⅲ）

- 『東アジア比較文化研究』創刊号・平成十四年（二〇〇二）六月
- 「新撰万葉集序についての覚え書き」
- 『甲南大学紀要』文学編〇・平成十五年（二〇〇三）三月
- 「菅原道真の子を悼む詩と白詩」（Ⅲ）
- 『京都語文』十号・平成十五年（二〇〇三）十一月
- 「雲の「しるし」と『源氏物語』——野に遺賢無し——」（Ⅲ）
- 『東アジア比較文化研究』五号・平成十八年（二〇〇六）八月
- 「源氏物語柏木巻における白詩受容——元稹の死と柏木の死——」（Ⅲ）
- 『白居易研究年報』七号・平成十八年（二〇〇六）十月
- 「源氏物語の春秋争いと元白・劉白詩」（Ⅲ）
- 『国語と国文学』八十四卷八号・平成十九年（二〇〇七）八月
- 「白居易の花実論と源氏物語」
- 『古代学研究所紀要』五号・明治大学古代学研究所・平成十九年（二〇〇七）十月
- 「源氏物語花宴巻と鶯鶯伝」
- 『和漢比較文学検討会論文集』台湾大学・平成二十年（二〇〇八）九月
- 「源氏物語花宴巻と『鶯鶯伝』——朧月の系譜——」
- 『白居易研究年報』九号・平成二十年（二〇〇八）十月 *右論文を改稿
- 「源氏物語賢木巻における白詩受容——薔薇の初花とその周辺——」

- 『白居易研究年報』十号・平成二十一年（二〇〇九）十月
- 「源氏物語と唐代伝奇―基層としての遊仙窟―」
- 『和漢比較文学』四十四号・平成二十二年（二〇一〇）二月
- 『奥の細道』と白居易の三月尽
- 『2010 和漢比較文学検討会論文集』台湾大学・平成二十二年（二〇一〇）十月
- 「わが国における「長恨歌」の受容について」
- 『白居易研究年報』十一号・平成二十二年（二〇一〇）十二月
- 「白居易と菅原道真の三月尽詩について―「送春」の表現―」
- 『女子大國文』百四十八号・平成二十三年（二〇一一）一月
- 『新撰万葉集』の成立と意義
- 『国文学 解釈と鑑賞』七十六巻八号・平成二十三年（二〇一一）八月
- 「白居易の諷諭詩と菅原道真―新楽府「牡丹芳」詩・「白牡丹」詩の受容を中心に―」
- 『白居易研究年報』十二号・平成二十三年（二〇一一）十二月
- 「源氏物語正篇の終焉―幻巻と謝観「白賦」―」
- 『東アジア比較文化研究』十一号・平成二十四年（二〇一二）六月
- 「源氏物語夕顔の巻と妖狐譚―賀陽良藤の話をめぐる―」
- 『朱』五十六号・伏見大社・平成二十五年（二〇一三）二月
- 『奥の細道』と白居易の三月尽

『女子大國文』百五十三号・平成二十五年（二〇一三）九月 *既発表論文の再録

「方丈記と白居易―隱遁と住居の表現について―」

『白居易研究年報』十四号・平成二十五年（二〇一三）十二月

「唐土の美女と源氏物語の女性達」

『和漢比較文学』五十四号・平成二十七年（二〇一五）二月

「白居易・能因・芭蕉の「三月尽」―白河の関へ―」

『白居易研究年報』十五号・平成二十七年（二〇一五）三月

○その他（翻刻、事典項目、学会展望、図書紹介、講演筆録、随想等）

「文翰雑編卷之四」（翻刻） *日野龍夫と共同

『文翰雑編二宮内庁書陵部蔵』京都大学国語国文資料叢書十八・臨川書店・昭和五十五年（一九八〇）一月

「故事」（項目）

『源氏物語必携Ⅱ』別冊『国文学』No.13「源氏物語表現事典」・学燈社・昭和五十七年（一九八二）二月

「経国集」「文華秀麗集」「凌雲集」（項目）、「日本文学史年表」（中古部分）

『日本文学史辞典』京都書房・昭和五十七年（一九八二）九月

「引用」（項目）

『国文学』三十卷十号、「古典文学のキーワード」・学燈社・昭和六十年（一九八五）九月

「華やかなりしころ」

『学生部だより』No.94・甲南大学・昭和六十年（一九八五）十一月

「仰げばとうとし」

『風間力三先生退職記念文集』甲南大学・昭和六十二年（一九八七）九月

「引詩」（項目）

『源氏物語事典』別冊国文学No.36 「源氏物語表現・発想事典」・学燈社・平成元年（一九八九）五月

「随想」

『濱口博章先生退職記念文集』甲南大学・平成二年（一九九〇）七月

「花の雲」

『五色』（私家版俳誌）一卷六号・平成二年（一九九〇）九月

「パソコン事始め」

『京都大学国文学会会報』三十九号・平成三年（一九九二）十月

「谷崎潤一郎『吉野葛』と『源氏物語』」

『甲南大学図書館報藤棚』七卷三号・平成三年（一九九二）十二月

「パソコンとつき合う方法」（講演筆録）

『国文学データベース研究集会』四号・平成七年（一九九五）七月

「震災レポート―甲南大学から―」

『1995. 1. 17を証言する―甲南大学・教職員による震災体験の記録―』第一部第三編・甲南大学・平成八年

（一九九六）三月

「新聞―美先生退職記念小特集」

- 「平成八年国語国文学会の展望（I）中古・漢詩文・日中比較文学」
- 『文学・語学』百五十六号・平成九年（一九九七）十月
- 「河岳英霊集」「白氏文集」「遊仙窟」（項目）
- 『日本古典文学大事典』明治書院・平成十年（一九九八）六月
- 「紹介 小島憲之著『国風暗黒時代の文学』（全八冊）」（Ⅲ）
- 『和漢比較文学』二十三号・平成十年（一九九九）八月
- 「日本文学へ与えた白居易の研究に関する研究（1997年—1999年）」（文献解題）
- 『白居易研究年報』一号・平成十二年（二〇〇〇）五月
- 「兎遅兎遅集の頃」
- 『京都大学国文学会会報』四十八号・平成十二年（二〇〇〇）九月
- 「長恨歌」（項目）
- 『源氏物語事典』大和書房・平成十四年（二〇〇二）年五月
- 「新撰万葉集」「源氏物語 典拠・影響」「中国文学と平安文学」（項目）
- 『平安文学研究ハンドブック』和泉書院・平成十六年（二〇〇四）五月
- 「揆搦」
- 『女子大國文』百三十七号・平成十七年（二〇〇五）六月
- 「白居易と平安女流文学―春はあけぼの―」
- 『白氏文集 二上』（新釈漢文大系）附録・季報百五号・明治書院・平成十九年（二〇〇七）七月

「源氏物語と白氏文集」（図録解説）

『源氏物語千年紀展 図録』京都文化博物館・平成二十年（二〇〇八）四月
「序文」

『古今的表現の成立と展開』岩井宏子著・和泉書院・平成二十年（二〇〇八）八月
「藏中進先生を悼む」

『水門言葉と歴史』二十一号・平成二十一年（二〇〇九）四月
「月の鼠」と「無常」

『芬陀梨華』三百七号・京都女子大学・平成二十一年（二〇〇九）十二月
「特集にあたって」 「編集後記」

『白居易研究年報』十二号・平成二十三年（二〇一一）十二月
「巻頭言」

『東アジア比較文化研究』十一号・平成二十四年（二〇一二）六月
「和漢朗詠集」とその注釈―平安朝美意識の淵源―（図書館資料紹介）

『京都女子大学通信』No.110・平成二十六年（二〇一四）四月

◆学会発表・講演等

「源氏物語の終わり方について」

「新聞―美先生退職記念小特集」

昭和五十三年度京都大学国文学会・於京都大学・昭和五十三年（一九七八）十一月
「花も実も―古今序と白楽天―」

和歌文学会関西第十四回例会・於大阪女子大学・昭和五十五年（一九八〇）十一月
「かげろふについて」

和漢比較文学会第十四回例会（西部）・於奈良女子大学・昭和六十年（一九八五）一月
「元白・劉白の文学と源氏物語」

和漢比較文学会第十一回大会・於北海学園大学・平成四年（一九九二）九月
「平安朝和歌と漢詩文」（講演）

現代歌人集会秋季大会講演会・於生研会館（京都）・平成四年（一九九二）十二月
「パソコンとつき合う方法」（講演）

国文学データベース研究集会・於国文学研究資料館（東京）・平成六年（一九九四）十月
「白居易の詩人意識と『菅家文章』『古今序』―詩魔・詩仙・和歌ノ仙―」

和漢比較文学会第十四回大会・於神戸大学・平成七年（一九九五）十一月
「松風の吹く風景―新楽府「陵園妾」と源氏物語―」

和漢比較文学会第五十一回例会（西部）・於大阪大学・平成八年（一九九六）四月
「五節の舞の起源譚と源氏物語―をとめごが袖ふる山―」

関西平安文学会第二十回例会・於関西大学・平成九年（一九九七）十二月
「源氏物語明石巻と琵琶行―謫居の出会い―」

和漢比較文学会第五十八回例会（東部）・於中央大学駿河台記念館・平成十年（一九九八）一月

「明石姫君誕生祝賀歌の背景―古今「さざれ石」歌の解釈に関連して―」

平成十一年度中古文学会秋季大会・於奈良女子大学・平成十一年（一九九九）十月

「松の神性と『源氏物語』」

東アジア比較文化国際会議第五回本部大会・於國學院大学・平成十二年（二〇〇〇）十月

「算賀の和歌と源氏物語」

和歌文学会関西第七十四回例会・於相愛女子短期大学・平成十二年（二〇〇〇）十二月

「京都―平安京と『源氏物語』」（講演）

東アジア比較文化国際会議第五回日本支部大会・於羽衣国際大学・平成十四年（二〇〇二）六月

「源氏物語の初夏の風景と白詩―柏木巻を中心に―」

平成十一年度中古文学会秋季大会・於同志社大学・平成十六年（二〇〇四）十月

「白居易の花実論と源氏物語」

明治大学古代学研究所シンポジウム「源氏物語における菅家と白氏」・於明治大学・平成十八年（二〇〇六）十二月

「源氏物語における和風と漢風」（講演）

平成十九年度東アジア比較文化国際会議日本支部会・於京都女子大学・平成十九年（二〇〇七）六月

「源氏物語の長編構想と伝」

和漢比較文学会第二十六回大会・於慶應義塾大学・平成十九年（二〇〇七）九月

「新聞―美先生退職記念小特集」

「源氏物語花宴巻と鶯鶯伝」

和漢比較文学会第二回特別例会・於台湾大学・平成二十年（二〇〇八）九月

「源氏物語との千年目の出会い―楊貴妃と源氏の姫君たちの意外な関係―」（講演）

講演会「源氏物語との千年目の出会い」・於さいたま文学館・平成二十年（二〇〇八）十月

「源氏物語と唐代伝奇―基層としての遊仙窟―」

和漢比較文学会第二十八回大会・シンポジウム「物語文学と唐代伝奇」・於國學院大学・平成二十一年（二〇〇九）

九月

『奥の細道』と白居易の三月尽」

和漢比較文学会第三回特別例会・於台湾大学・平成二十二年（二〇一〇）九月

「源氏物語と遊仙窟―若紫巻と夕顔巻を中心に―」

明治大学古代学研究所シンポジウム「源氏物語と唐代伝奇」・於明治大学・平成二十二年（二〇一〇）十二月

「和漢比較文学会との三十年」

和漢比較文学会第三十回記念大会・シンポジウム―回顧と展望―」平成二十三年（二〇一一）九月

「源氏物語と遊仙窟―「花のかほ」の文学史―」（講演）

平成二十四年度京都大学国文学会・於京都大学・平成二十四年（二〇一二）十二月

「中古文学―源氏物語」

奈良女子大学古代学術研究センター第九回若手研究者支援プログラム・シンポジウム「注釈と受容―『遊仙窟』

を中心として」・平成二十五年（二〇一三）八月

「源氏物語と白居易―廬山草堂詩の受容について―」「源氏物語と漢詩文―白居易「長恨歌」の受容について―」（講演）

台湾大学・平成二十五年（二〇一三）十一月

「嵯峨朝詩壇における中唐詩受容」

和漢比較文学国内特別例会・シンポジウム「嵯峨朝文学を考える」・平成二十六年（二〇一四）五月

「唐土の美女と源氏物語の女性達」（講演）

和漢比較文学会第三十三回大会・於群馬県立女子大学・平成二十六年（二〇一四）九月

「平安朝文学の「白」の世界」

京都女子大学最終講義・平成二十七年（二〇一五）一月二十日

◆新間一美先生著書書評等

日向一雅「書評 新聞一美著『平安朝文学と漢詩文』」

『和漢比較文学』三十二号・平成十六年（二〇〇四）二月

後藤祥子「書評 新聞一美著『源氏物語と白居易の文学』」

『和漢比較文学』三十二号・平成十六年（二〇〇四）二月

天野紀代子「書評 新聞一美著『源氏物語と白居易の文学』」「平安朝文学と漢詩文」

『国語と国文学』八十一卷三号・平成十六年（二〇〇四）三月

三木雅博「書評 新聞一美著『源氏物語と白居易の文学』」「平安朝文学と漢詩文」

「新聞一美先生退職記念小特集」

『白居易研究年報』第六号・平成十七年（二〇〇五）十二月

山本登朗「新聞一美著「源氏物語の結末について―長恨歌と李夫人と―」

『源氏物語と紫式部研究の軌跡 研究史篇』角川学芸出版・平成二十年（二〇〇八）七月

滝川幸司「紹介新聞一美著『源氏物語の構想と漢詩文』」

『女子大國文』百四十六号・平成二十二年（二〇一〇）一月

北山田正「書評 新聞一美著『源氏物語の構想と漢詩文』」

『和漢比較文学』四十四号・平成二十二年（二〇一〇）二月